

今月のテーマ



シント(ゆりかご)

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)

アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

「眠

りは水面からわきあがるものだろうか、それと
も地面からたちのぼるものだろうか、眠りの神
様よ、どうか揺り籠の上におりて、静かにこの子を眠ら
せて下さい」と歌われる八雲地方のイフムケ(子守歌)、
素敵な歌詞ですよ。子守歌で「揺り籠」や「眠りの
舟」と訳されるシントは、赤ちゃんを乗せて揺らしなが
ら寝かしつける育児グッズ。

シントは、幅は四〇センチ、長さ八
〇センチ程の櫛ヘシのような形をしてい
ます。梓木ハシとなる二枚の板に横
木を四本、梯子はしのように組合せ
た本体に、葦よしずを乗せて固定し、
シントを吊るすための紐穴、四ヶ
所に紐を通せば完成。屋内では
天井から、屋外では三脚を組み
立て、吊り下げて使います。赤
ちゃんが落ちないように軽く紐
で結わえ、シントの足元に別紐
を結びつけておけば離れた場所
からでも揺らすことができるので仕事しながらでも使
える優れもの。

シントの材料の多くは薬用にもなるキハダが使われ、
製作には技術よりも人柄の良い人を選ぶとのこと。病
気などせずに元気に育つようお願い、シントのカムイ
(神)にも作り手の良い精神が受け継がれることで、安



イラスト/ 莊田悠人

心して子供を預けられるという考えからなんだとか。
このシント、赤ちゃんを寝かしつけるだけではないん
です。なんとカムイの乗り物でもあるんです。カンナカ
ムイ(上方の神)と呼ばれる雷神のお話に出てくるシン
タは、カネシントという黄金のシント。形は赤ちゃんのシ
ントと同じですが、黄金の紐で吊るされていて、その紐

の先が上空のどこに結ばれてい
るかはわからないけど、とにかく
そのシントに乗って雷神は空を
飛んでくるんだといえます。シ
ントの紐を引き締めたり、緩め
たりしてスピードを調整するこ
うから、紐がアクセルやブレー
キの役割をするんですね。エン
シン音はやっぱり雷神だけに「コ
ロコロ」でしょうかね?そして、
シントには武器も搭載されてい
ます。雷神がシントの上手、下手
を強く打ち叩くとシントから

真つ赤な炎を虹のように降らせ、ものすごい音をたてて
落ちていく。つまりシントを太鼓のように叩くと、稲妻
が走り雷が落ちるといって、最強の武器。落雷はカンナカ
ムイの人間への警告だとも考えられてきました。
赤ちゃんのシントとカムイのシント、用途は違いますが
どちらも空中に浮く乗り物には違いないですね!



今回のテーマは「アベオイ(囲炉裏)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」



イランカラブテ
「こんにちは」からはじめる。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。